

## 「新産業を生む科学技術」選考講評

選考委員長 長田 義仁

科学技術には新産業を生み出してより豊かな社会を実現すると共に、社会そのものの在り様、価値観まで変える力があります。本プログラムはこれまで知られていない新しい産業を創出し、豊かな社会をもたらす革新的な科学技術研究を助成することを目的としています。その背景には、今こそ次世代の研究者が先導してイノベーションをもたらして欲しいという時代がもつめる強い要請があるのです。

第13回目の募集となる今回は168件の応募がありました。医療、生命、材料、デバイス、ICT、ロボティクス、環境、エネルギーなど非常に広い分野から応募がありました。応募者の年齢は30歳代から70歳代まで広く分布し、女性の応募者は15名でした。

応募いただいた提案書は様々な分野の学識豊かな選考委員15名によって慎重に審査されました。事前に、分野、年齢、性別、地域などの配慮をしないことを確認したうえで、自由な発想に基づく創造性あるビジョンか、先駆的で高い水準の研究か、新産業を生み出し豊かな社会を実現する構想か、といったことを重要な視点として審査しました。当然、そこに独創性、革新性、そして挑戦性があることが求められました。また、既存の学問分野を深めるというより、枠を超えて新しい学問を切り開く可能性があるか、といったことにも留意して議論しました。

例年にも増して高いレベルの魅力ある提案を数多く頂いたと思っております。これらの提案に対し選考委員は丁寧に、そしてオープンに議論を重ねました。提案書に基づく1次審査、研究者のプレゼンも交えた2次審査を経て、

最終的に 11 名の研究者の提案を採択いたしました。選考委員一同は現代社会が求める、あるいはそれを先取りするような先駆的な提案を選ぶことができたと考えております。

キャノン財団による研究助成の特徴は、課題採択後も選考委員が事務局の方々と共に随時、研究者の要望に応じてアドバイスをする機会を設けていることです。また、様々な分野の研究者間で議論と交流をする場を設けて、異分野融合研究を展開する機会をつくっていることです。めでたく採択された研究者の皆さんは、これらの機会も活用して自ら描いた構想に果敢に挑戦してその実現を目指して欲しいと思います。